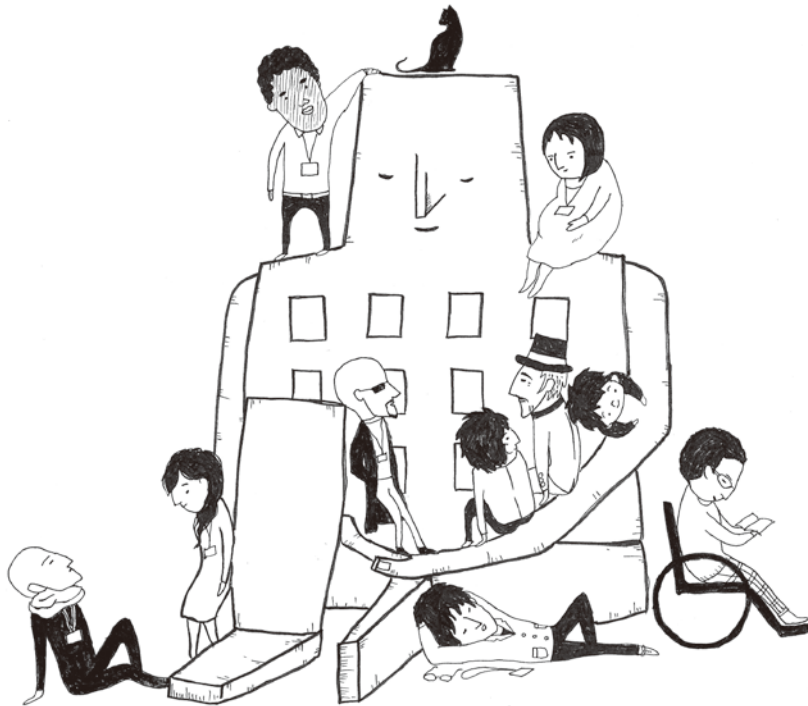




No. 90

発行人 染野 貴寛  
発行所 一般社団法人千葉県社会福祉士会事務局  
〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港7-1  
塚本千葉第5ビル3F  
TEL043-238-2866  
FAX043-238-2867  
<http://www.cswchiba.com/>  
E-mail: [office@cswhiba.com](mailto:office@cswhiba.com)

※ 点と線はメール配信でも読めます！



『医療・福祉産業』は、前年度に比べて離職者数の増加幅が最も大きく、61万8千人の増加であった。※平成26年 厚生労働省 雇用動向調査

Quality improvement（質の向上）の視点では、点と線を通じて、先陣を走る諸先輩方の先進的な取り組みや、「福祉職人」について数多く取り上げられてきました。

Quality assurance（質の担保）の視点で考えてみましょう。人員基準を満たし、永続的なサービスを提供するためには、「人」が必要です。

普段は考えたことがなくても、一度、経営者の視点から福祉を考えてみませんか？

- 2 <特集> 福祉経営を考える
- 6 トピックス 総合事業への取り組み
- 7 地域集会 「長生・夷隅地区」
- 8 活動紹介 「企画部会」
- 9 社会福祉士のわ
- 10 研修レポート 「社会福祉士実習指導者講習」
- 11 (新企画) こんな事業見つけました「婚活支援」、ブレインストーミング
- 12 事務局便り

## 特集

# 福祉経営を

# 考える

福祉経営について

特定非営利活動法人 わごころ

理事長 吉田 充

(よしだ みつる)



福祉事業を経営するにあたり一番大変な事は、何より人材の確保であると考えます。何せ人経費が平均六割を占める福祉事業は人材が全てからです。

労働者の福祉離れを改善する何より一番の方法は、他業種並みの賃金向上と私は考えているので、労働者の努力による高収入の可能性と資格取得を積極的に促し、資金的にも支援しております。

現状の福祉業界で高収入を得て

いる人材は、ごく少数の経営者や管理職位です。何故ならこの業界は、そもそも高収入な職員を沢山配置出来るような利益を出せる事業体ではないからです。

よって、その中で高収入を得る人材となる為にはどうすれば良いかと問われたら、スペシャリストかジェネラリストを目指すよう伝えています。

当法人のスペシャリストとは、介護支援専門員と成年後見人の兼務で七百万円以上の売上を出せる人を指します。二つの業務は近いものがあり、この資格を合わせて効率よく仕事を行えば、十分に高収入を獲得できます。是非、福祉業界で働きたくても低賃金で離れた人は、二つの資格を取得し戻ってきてほしいものです。兼業可能な法人は当法人以外にも沢山あります。

尚、当法人のジェネラリストは広範囲にわたる知識を持つ人を目

指し、経営・管理・教育・実務を合わせて行なえるよう教育しております。

このジェネラリストが成長すること法人は規模の拡大を図れ、それを行わないで福祉経営を行うと人材の育成が間に合わず、ハードが良くてもソフトが駄目な事業になると考えているからです。

次に職員が魅力を感じられる職場作りとして行っている事は、職員が楽しく安心して仕事が出来来る福利厚生（環境作り）です。家族を含めた忘年会や法人総会、バーベキュー等に力を入れています。参加する職員の人数が職員のモチベーションと考えております。そのため役員、管理者等で企画し、なるべく全員に参加して頂けるよう努力しています。また、内部研修時には、子どもが遊べる空間を作り、極力全員に参加して頂けるよう工夫しております。

専門性を高める為の資格取得や

外部研修は、法人にプラスになる何かを職員に持ち帰るよう指導し職場内で研修報告させています。

苦悩と言えば、資格取得した職員が退職してしまう事ですが、法人にとっては損失であつても、社会的にはその資格を取得した職員が働けば、地域に貢献したことになると思うようにしています。

福祉経営で一番苦労する人材確保を挙げましたが、経営には人、物、金と課題は他にも沢山あります。決して成功ばかりではありません。失敗も同じ数だけあります。しかし、経営を続ける為には同じ失敗をしない事が必要であり、利用者を獲得する方法や職員を教育する方法は全ての事においてYESかNOかを確認することがコツであると私は考えております。

社会福祉法人 千葉県福祉援護会

障害者支援施設 誠光園

中村 正教

(なかむら まさのり)



### 法人の取り組み

千葉県福祉援護会の経営理念である「私たちは地域社会になくはない存在でありたい」の実現のためには、まずは人材を確保し全職員が一丸となって取り組むことが大切です。法人として、「働きたい職場」「働きやすい職場」と感じられるよう、採用戦略に基づく人材確保、新規採用職員に対する研修制度の充実、将来に向けた

キャリアパスの充実、安心して働ける環境整備等を強化して取り組んでいます。具体的には、プラチナくるみんマークの取得、キッズルームの開設、EPA外国人介護福祉士候補生の受け入れ、介護福祉士取得支援、リフレッシュ休暇の導入、魅力ある組織づくり委員会の設置等、様々な取り組みをしております。

### OJTによる指導

新規採用職員に対する研修は、OJTにより行っています。身近な先輩職員が一人ひとりに合わせて指導することで、指導だけでなく不安や悩みを相談しやすい環境としています。指導する職員が異なることで、指導内容が人によって違うということが起こらないよう、OJTの指導にあたっては、業務マニュアルや効果測定により指導項目を標準化しています。

### 組織体制づくり

職員一人ひとりが役割や責任を自覚し、円滑な連携や協力関係を築くことができれば、組織はうまく機能し、職員もその能力を最大限に発揮することができます。また、共通の目標に向かって役職者を中心に活発なコミュニケーションが交わされる中で、風通しの良い雰囲気形成されていきます。

このような中で、職員一人ひとりがやりがいを感じられる職場となり、人材確保・定着に繋がっていくものであると考え、組織体制作りを行っています。

### ノリフトの取り組み

腰痛に悩む介護職員は多く、腰痛は退職につながる重要な課題のひとつであります。私たちの施設では、重度の身体障害をお持ちの方が多く、介護の場面においては介護職員が抱え上げる動作を行う場面が多い状況であります。この



ため、腰痛の要因のひとつである  
移乗介助に着眼し、プロジェクト  
チームを結成し、ご利用者・職員  
ともに安心・安全な移乗介助を目  
指して取り組みを進めております。

職場体験学習や学生ボランティア  
を積極的に受け、ブログやFace  
book等も積極的に活用し  
て誠光園の魅力・福祉の仕事の魅  
力が伝えられるよう発信していま  
す。そのことで、少しでも福祉の  
仕事に興味を持ってもらい、将来  
にわたる人材確保に繋がっていき  
たいと思います。

## まとめ

私達の仕事はご利用者が幸せに  
過ごせるようサポートすることに  
あります。そのためには、まずは  
人材確保・定着が必要です。人材  
確保・定着が促進され適正かつ健  
全に事業を運営されることにより、  
ご利用者の満足度が高まり、職員  
のやりがいにつながっていきます。  
社会福祉士として単なる人材確  
保・定着ということではなく、サ  
ービスの質の向上と職員のやりが  
いを両立し、魅力ある組織となる  
よう、努力を惜しまず進んでいき  
たいと思います。

＊プラチナくるみんマーク

（子育てサポート企業として厚生  
労働大臣の認定を受けた証）

＊EPA看護・介護受入事業

（経済連携協定に基づくインドネ  
シア及びフィリピンからの看護  
師・介護福祉士候補者等の受入  
れ及び支援事業）

オランダの在宅ケア組織

ビュートゾルフに学ぶ

ビュートゾルフ柏

看護師／保健師 吉江 悟

（よしえ さとる）



ビュートゾルフ（BUURTZ  
ORG）という言葉は、オランダ  
語で「地域看護」、「ご近所ケア」  
といった意味を持ちます（BUU  
RTⅡ地域／近隣、ZORGⅡ看  
護／ケア）。ビュートゾルフは、オ  
ランダの地域看護師ヨス・デ・ブ  
ロック氏が二〇〇六年に設立した  
非営利組織です。当初四人で始ま  
りましたが、その後急速に拡大し、  
今やオランダ国内で九千人超の看

護・介護職を擁する組織へと成長  
しました。同組織の特徴として、  
利用者満足度と従業員満足度がい  
ずれも高いこと、さらに、利用者  
一人あたりのコストが他組織に比  
べて低廉であり、国の社会保障シ  
ステムの持続性の向上にも貢献し  
ていることなどがあげられていま  
す。階層を廃したフラットな組織  
構造、ICT（情報通信技術）を  
積極的に活用したことなども、注  
目を集める要因となっています。

このビュートゾルフは、一般財  
団法人オレンジクロスが日本国内  
のライセンスを管理する形で、昨  
年から日本においても活動が始ま  
っています。ビュートゾルフ柏は、  
訪問看護ステーションの形態をと  
りながら、昨年十月より日本で初  
めて活動を開始したチームです。  
今後、訪問看護の提供はもちろ  
のこと、近隣住民と協力した形で  
のコミュニティカフェの運営（こ  
れにより、中重度者への対応のみ



に終始しがちな看護師が、地域の元気な高齢者ともつながりを保ち、気軽に医療上の相談などにも乗ることができるようになることを目指しています）など、地域に必要な機能を考えながら、住民の人生に伴走していくために最良の形を模索していく予定です。

今回の特集テーマである「人材不足」や「若者の福祉離れ」に対して、我々がオランダのビュートゾルフから学べるかもしれないと思うことは、「外見」と「中身」の両立です。私がビュートゾルフに魅力を感じた大きな要素の一つは、実は「ロゴがかっこいい」というとても浅はかなポイントです。ただ、同時に、オランダで接した看護師たちの本質（＝患者本位）に集中する純粋な態度にも感銘を受けました。日本の福祉や医療の領域で、高邁な理念に基づき本質を追求した実践をされている専門職は、私が知る限りでも多数存在す

ると感じています。それに加えて今後は、若者から見て「福祉はかっこいい」と思わせる外見的な要素も、いつそう重要になってくると考えます。ビュートゾルフのようにロゴ（あるいは海外発というだけで魅力を感じる人もいるのかもしれませんが）から入るもよし、染野会長のようなイケメンがトップアピールをするもよし（笑）、様々な形で「福祉のかっこよさ」を演出していけるとよいと思います。もちろん外見だけのハリボテ



になってしまつてはいけませんが、外見と中身がよい相互作用を生みつつ、名実を伴ったイメージが創られていくことを期待します。他分野の例で言えば、スターバックスの店員は、あのロゴ、緑のエプロン、ウッド調の店内（＝外見）に包まれながら、細かい規則に縛られるのではなく、お客さんに最良のサービスを提供するために各々創意工夫をする（＝中身）と聞きます。外見と中身が伴ったところに、いわゆる「ブランド」ができてくるように思います。

# TOPICS

## 新しい総合事業で 地域社会に アクションを起こそう

柏市社会福祉協議会

山口 利史（やまぐち としふみ）

### 1 意識しておきたい背景

●日本の総人口は二〇〇八年から減少過程に入った。経済的な側面からフォーマルなサービスの拡充は期待したい

●都市部のベッドタウンとして発展してきた地域では急速な高齢化が課題、地域社会の再構築が必要

●県南部東部では、一貫して人口減少が続いており社会資源の不足を広い範囲での連携によりカバーすることが必要

●同じ市内でも、日常生活圏域毎に、住宅地の増設された時期、人口構成、社会資源等、地域の抱える社会資源と課題は、一つ一つ異なる

2 新しい総合事業の対象者と枠組

●介護予防・生活支援サービス事業

・要支援認定者、介護予防・生活支援サービスのみの利用する場合は基本チェックリストで判断

・訪問介護・通所介護以外のサービス（訪問看護、福祉用具等）は、引き続き介護予防給付によるサービス提供を継続

・市町村が地域の実情に応じて多様なサービスを実施

### ●一般介護予防事業

・全ての高齢者が対象

・介護予防把握事業、介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業、一般介護予防事業評価事業、地域リハビリテーション活動支援事業

### 3 介護予防・生活支援の体制整備

●生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の配置

三つのコーディネート機能を想定

（A）資源開発（B）ネットワーク構築（C）ニーズと取り組みのマッチング

1層（市町村区域）で主に資源開発

2層（日常生活圏域）で具体的な活動を展開

### ●協議体の設置

・高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人、協同組合等の多様な事業主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築を支援

### 4 私が事業に期待すること

これから市町村それぞれの創意工夫により事業が進められる中で、様々な期待が持てるが、まず四点をあげたい。

(1) 高齢者自身が担い手として活躍すること、いきがいや介護予防につながる

(2) 地域内に分散しているフォーマル・インフォーマルの資源が統合でき、互いに活かしあえるようになる

(3) 介護予防生活支援サービスの訪問型サービスA（緩和した基準によるサービス）では、市町村の研修により住民が福祉の担い手となる新たなきっかけを作ることができる

(4) 住民主体による支援と専門職によるケアマネジメントがつながること、支援する側とされる側という画一的な関係性ではなく、自立へ

向けた意欲を活かしながら、有する能力に応じた柔軟な支援が展開できる

### 5 社会福祉士からのアクション

上述の四つの期待を具体化するために、地域の社会福祉士がそれぞれのフィールドからアクションを起こすことが可能となる。

(1) 高齢者の担い手としての場を創造することで利用者の生活における人間関係をより奥行きのあるものにできる

(2) 資源の統合への積極的な参加により、利用者の生活課題を地域で共有し、政策提案のチャンスが増える

(3) 地域の新たな福祉の担い手に対して、専門職として倫理面で見守り、育成できる

(4) 自立支援へ向かう目標設定が専門職達からの押し付けにならないために、利用者の可能性を見据えたアセスメントに力点を置く必要がある。利用者の生活から広く細かく有効な情報を掘りあげる力こそ我々の専門性であり、支援チームの一員として本領が発揮できる

# 地域集会 つながるネットワーク

長生夷隅  
地域

報告者

茂原市社会福祉協議会

河野 規子

(ここの のりこ)



平成二八年一月十五日、茂原市東郷福祉センターにて、地域包括支援センターや中核地域支援センター、病院、介護保険事業所などで活動する十九名が集まり、「認知症カフェから学ぶ場づくり」と「地域集会でこれから学びたい事」という二本立てのテーマで開催されました。

はじめに「認知症カフェから学ぶ場づくり」では、認知症ケア専門士などが集まる茂原みかんの会が、昨年の十月からスタートさせた認知症カフェ「オレンジカフェあぜみち」

について紹介して下さいました。認知症カフェを立ち上げたという経緯は、日頃の支援から、孤立しがちな認知症の方とその家族が地域との繋がりをもち、ゆつくりできる場所が必要と考えたとのことでした。

茂原市では初めてできた認知症カフェということもあり、地域の社会資源として、ケアマネジャーや社会福祉士などの地域の専門職や、福祉関係団体も見学に訪れているとのことでした。「オレンジカフェあぜみち」は、地域の認知症の人とその家族が訪れ、カフェから見える季節折々の景色を眺め、オーナーの美味しいデザートを味わい、ゆつくりと時を過ごせる場所となっているそうです。また、あたたかなスタッフと話をしたり、ボランティアにも協力を得ながら、地域との繋がりが感じられる場となっているそうです。

その次に、久々に開催されたこともあり「地域集会でこれから学びたいこと」をテーマに座談会形式で、参加者全員で円をつくりながら、それぞれの自己紹介を行った後、意見交換を行いました。今回のテーマ設定は、会員のみなさまが、日頃どんなことをしていて、それぞれの地域集会はどのような場になっているのかを共有し、次回以降の開催につ

なげていこうというものでした。

様々な意見の中で、お互いの仕事を知り、多面的な支援を知る為、事例検討会や情報交換会の企画などがあがりました。みなさんが抱えている課題やテーマは、それぞれの立場で異なり、社会福祉士が多様な活動の場を持つていることを感じるとともに、共通することは、地域集会は社会福祉士という視点で、独自の専門性を発揮することだけでなく、互いの専門性と知識を共有し、連携を図っていくことが大切ということでした。また、自らの専門性を高めることで、ソーシャルワークの底上げにもつながることを感じました。

話が少し変わりますが、私は、今回初めて地域集会に参加しました。初参加の私が報告を書かせていたくのはとても恐縮な気持ちです。参加するにあたり、新米の社会福祉士である自分にとって、「自分の専門性を高め、地域で活動していきたい。その為には、周辺地域の社会福祉士との繋がりを深めたい。」という気持ちを持っていました。一方で「足でまといになってしまいうのではないか？」という不安や、緊張した気持ちが入り交じる、複雑な気持ちもありました。実際に参加して

豊富な支援経験を教えていただく中で、みなさんの様々な意見に一つしか持ち合わせていなかった自分の考え方の狭さを反省し、違った発想や見方を聞かせていただき、視野を広げることができたと思います。

「場」には、当事者グループや各種サロンなど様々な場があるかと思っています。しかし、どんな場でも、参加する理由が違っていても、そこで色んな人が行き交うことで、新たなエネルギーが生まれて、前に進む經由地のような、大切な空間だと思いました。今後の企画には様々な意見があがっています。自分も参加すること、みなさんと一緒に実現し地域で活かしていきたいと思っています。





## 活動紹介

### 「企画部会」

千葉県社会福祉士会 企画部会  
櫻井 絢子（さくらい あやこ）

#### 活動内容

活動の柱は二つ、①地域集会のバックアップ②他団体（主に精神保健福祉士協会、医療社会事業協会）との連携です。

総務委員会の中の企画部会というポジションから、他の部会になじまない役割が集まってくる説もありますが、時節に応じて色々なことにチャレンジできる部会とも言えるかもしれません。

#### 生い立ち

企画部会の歴史は意外に長く、千葉県社会福祉士会の成長とともに名称を変えながら活動してきました。今では一般社団法人となった当

会ですが、はじめに社団法人化するときの準備を担った委員会が、企画部会の前身です。

ここ数年では、会員交流の場を充実させること、他職種とのネットワークを広げることが目標に、地域集会の仕組みを整理したり、他団体との合同研修を企画するなど、コソコソと地道に活動が続けています。

#### 活動風景

といっても、部会そのものは「打ち合わせ」ですから、絵になるようなものではないので・・・柱となる二つの事業について紹介します。

##### ★地域集会

県内を十四地区にグループ分けし、地域ごとに集まって自由に企画をしています。定期的に研修をしているところもあれば、飲み会、愚痴会などなど、内容は様々です。

各地区には活動を仕切ってくれている世話人さまがいます。企画部会の事業ではありますが、中心となっているのは世話人さま、そして主役は会員のみなさまで。企画部会

では、地域集会を開催するために必要な経費の補助や、地区のグループ分けなどについて話し合い、開催規程づくりをしています。活動スタイルは地区ごとに異なりますが、それぞれにカラーがあって面白い！

##### ★他団体との連携

精神保健福祉士協会、医療社会事業協会とともに、千葉県ソーシャルワーカー三団体連絡協議会を作っています。名前は長いのですが、同じソーシャルワーカーとして、職種の枠を越えて連携しましょう、という活動です。

メインの合同研修は毎年一回、すでに十年以上続いています。『「地域で生きる」を支援する』シリーズ、見覚えありませんか？

#### 魅力

企画部会の活動は、会員と会員をつなぎ、また多くの職種がつながることの仕掛け人です。地域集会の世話人さまや、他団体の方との交流が刺激を受け、たくさんアイディアに出会い、まず自分の手持ちカードが

増えます。

部会の招集は不定期ですが、関心をお持ちいただいた方は事務局へご一報ください。





# 社会福祉士の

# わ

市原市地域包括支援センターひまわり

宮崎 倫子

(みやざき ともこ)

## ☆自己紹介☆

他県の大学卒業後、市原市内の知的障害者入所施設に勤務。結婚、出産後、何気なく見た市の広報紙で市原市の直営地域包括支援センターの嘱託職員として勤務。その頃、市原市は二か所の委託包括がありましたが、現包括が委託されるのをきっかけに今の職場「地域包括支援センターひまわり」に勤めることとなりました。その後、二人目の産休・育休を経て、現在も社会福祉士として勤務し六年が過ぎようとしています。

## ☆地域包括支援センターとの出会い☆

前述にもありますが、一人目出産後何か仕事に就きたいと思い、いろいろな求人を探していたところ、市原市の広報紙に「地域包括支援センター嘱託職員募集」を見つけ、資格条件に社会福祉士があつたので、小さな子どもがいるのでダメかもしれないと思いながら応募したところ、採用して頂くことが出来ました。就職するまで、地域包括支援センターは何をするところなのか全く無知であり、オリエンテーションや引き継ぎ担当約三〇ケースを渡されたとき、自分には出来るのだろうかという不安がとても強かったのを覚えています。訪問のアポイントの連絡も、何を話したら・・・、どうしたらいいのだろう・・・とドキドキでしたが、直営の職員の方々、同じ嘱託職員のみなさんとても親切に教えていただき、不安も少しずつ無くなり仕事に慣れることが出来ました。

## ☆地域包括支援センターに従事していること☆

この仕事について、私は『親との関係の大切さ』『子どもとの関係の大切さ』『お金の大切さ』を改めて感じました。いろいろな相談を受け、訪問させていただく中で、学ぶこと・考えさせられることが多くあります。時には時間をかけ信頼関係を築きながら、一歩進んで二歩下がるというような相談状況のことも多いですが、問題を一つずつクリアし、先が見えてきたときは「この仕事やっついてよかったな」と思います。地域包括支援センターは相談者の方にとっては一通過点でしかありません。いろいろな相談に対応している中で、自分の伝えたこと、やっていたことが正しかったのだろうか、と日々自問自答を繰り返しながら、試行錯誤しています。

## ☆育児との両立で心掛けていること☆

仕事の ON と OFF を明確にすることを心掛け、子どもを迎えに行つた後からは、子どもと向き合うようにしています。帰宅後は、夕食準備、

夕食、入浴、寝かしつけでバタバタとしているのが現状ですが・・・。寝かしつけをしているはずが、夫が帰宅する頃にはほとんどの確率で一緒に眠ってしまっています。

## ☆今後について☆

まだまだ経験も浅く、至らないところもあると思いますが、地域の方、関係機関の方などのつながりや顔の見える関係を大切にしながら、「あの地域包括支援センターは相談しやすいところ」と気軽に相談できる、また、出会って良かったと思っていたるように、日々自分の専門性を向上していきたいと思っています。

皆様、今後ともよろしくお願いいたします。



# 研修レポート

社会福祉士実習指導者講習（千葉）  
への気持ち

千葉県社会福祉士会研修委員会

神田 一彦

（かんだ かずひこ）

私が実習をしていた頃、実習プログラムの開発はまだ発展途上でした。社会福祉士の資格や介護保険法ができる以前の実習でしたので、実習担当の教員や施設の方々も手探りの状況であったと思います。そんな中でも当時、特養の生活指導員（時代を感じさせてしまう、この単語知っています？）の方から、自分の信念があったのでしょうか、ある利用者さんのプロフィールを話していただきました。そして、「退所できるようにするためには、どのように考えていくことがよいか？」と質問を投げかけていただきました。私自身は、特養に入所したら病気になるまで住める、部屋暮らし程度の入所施設という感覚だけで実習していました。ですから、今でも鮮明に記憶に残っているのは、私にとって余程の衝撃発言であったのだと思います。今は、措置の時代から契約の時代に移っています。しかし、本人が望む暮らしを実現していくことへの私たちの役割や信念は変わっていないと思いませんか？

るまで住める、部屋暮らし程度の入所施設という感覚だけで実習してました。ですから、今でも鮮明に記憶に残っているのは、私にとって余程の衝撃発言であったのだと思います。今は、措置の時代から契約の時代に移っています。しかし、本人が望む暮らしを実現していくことへの私たちの役割や信念は変わっていないと思いませんか？



とは、社会福祉現場実践と社会福祉理論の融合だと感じています。この融合された熱いカタチを『社会福祉士実習指導者講習会（千葉）』を修了された方々には、学生さんが必死で学びを深めている百八十時間、相談援助実習期間において伝えていたきたいのです。

『社会福祉士実習指導者講習会』は、学生さんに社会福祉士像を伝える、これからの学びの視点の土壌をつくることができるようになることを目的に開発された、社会福祉士専用のプログラム構成になっています。実習指導概論、実習マネジメント論、実習プログラミング論、実習スーパービジョン論の構成でぎつちりと二日間。私が受講したとき、学生さんへ伝えることの難しさ、自分自身の学びの薄さを痛感しました。もしかすると受講された皆さんも同じように考えたかもしれません。しかし、社会福祉士は、社会福祉士が育てていかなければなりません。これからも、ずっと自分自身の技術や技量、知識を深めて、様々

な分野で活躍する社会福祉士の皆さんに様々な分野で活躍する熱い社会福祉士を育てていってほしいと感じています。

そして、今後は、受講された皆さんのアンケート結果から、実習指導者としての悩みを社会福祉士として共通化、理論化し実習指導がさらにレベルアップできるように実習指導者関連の研修企画をしております。『点と線』や千葉県社会福祉士会 HP は、チェックモック、よろしくお願いたします。



新  
企  
画

こんな事業を  
見つけました

「しあわせのお手伝い」

我孫子市社会福祉協議会

我孫子市結婚相談所

「あび♡こい♡ハート」

私ども我孫子市社会福祉協議会の結婚相談所は、結婚を望んでいる方へ良縁が得られるようスタッフがご相談に応じ、しあわせのお手伝いをさせていただきます。

スタッフは、ご紹介をはじめ、実際の仕方や交際の悩みなど、結婚に至るまでサポートをしており、時には、デートの服装やメールのやり取りの仕方までアドバイスすることもあります。

当会は「プロフィールや顔写真」を登録するシステムになっており、

会員は二十代～五十代を中心に男性二百名、女性百二十名。会員は、独身であれば年齢もお住いの地域も問いません。

また、スタッフが紹介をすすめても「プロフィールと顔写真」だけでは理解してもらえないことも多くあります。会わないままお断りされるケースが増えたため、「お見合いパーティー」や「お見合いバスツアー」などのイベントを実施し、登録に関係なく広報で一般に参加を呼びかけて、たくさんの方に良縁を得る場を提供しています。イベント内容によって年齢などの参加条件が異なりますので、詳細についてはホームページをご確認ください。

平成二七年度から、我孫子市の協力で我孫子駅前のかやきプラザの十一階で開設をしています。結婚されたカップルは、二七年度は五組。今年度は、現在のところ六組となっています。

これまで以上に結婚したい方を応援していきたいと考えています。皆様のご利用をお待ちしています。

フレイ  
ス  
ス  
ト  
ー  
リ  
ン  
グ

～ある冬の夜に～

T 前号の点と線は、読者からの声の記事に反映できて、良かったよね。

Y そうだね。一方的に発行しておしまいじゃなく、レスポンスがあるお手ごたえがあつて嬉しいですね。

I ちゃんと読んでくださっていると感じられると、やり甲斐がありますね。

T さて、では第九〇号の点と線は、どんな切り口にしましょうか。

M 現場で活躍するソーシャルワーカーの目線での記事は今までもあったから、今回は福祉経営者からの目線で書いてもらおうと新鮮かもね。

Y 職員の離職対策って切り口は面白いかもね。

S 新企画もやりたいね。

O あ、コーヒー落としてあるんで、皆さんお好きに飲んでくださいね。T シュークリーム、差し入れです。

全 やった！いただきますーす。

T ちよつとOさん、めちやめちやクリーム垂れてるよ。

O あらあら！ちよつと手洗ってくださいす！

S シュークリームはさ、クリームの差し込んだ穴を探して、そこから食べると綺麗に食べられるんだよ。新企画、シュークリームの正しい食べ方！とか、どう？

M いやいや、美しすぎる社会福祉士とかはどうですか？

A 自薦、他薦を問わず、募集してみますか。

T そこまでぶつとんだ企画は難しかなあ…。面白いけどね！

M じゃあ、ちよつとだけマイルドにして、婚活支援をしている社会福祉士なんて探してみたら面白いかもしれないね。

全 いいね！よし、決まり！

広報部会では、和気あいあいと楽しく活動しています。皆さん、お気軽に編集会議や発送作業に来てみませんか？

**事務局便り**

春を感じる季節になってまいりました、皆様いかがお過ごしでしょうか。  
さて、会員の皆様のご協力のもと、平成 27 年度第 1 回臨時総会を無事に開催することが出来ました。ご出席いただいた皆様、書面表決・委任状をご送付いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

また、6 月には平成 28 年度第 1 回総会・県民公開講座を予定しておりますので、引き続き、ご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。

新年度を迎えるにあたり、お忙しい日々をお過ごしのこととしますので、くれぐれもご自愛ください。

**研 修 等 ・ 行 事 の お 知 ら せ**

○ 平成 28 年 6 月 18 日（土）平成 28 年度第 1 回総会

※研修等が新たに決定した際にはホームページに随時掲載致します。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

はじめまして！

＊＊ 新事務局員のご紹介 ＊＊

今年 1 月より事務局に入りました白井と申します。年の初めに入局して、気持ちも新たに頑張る所存です。今までも一般事務の仕事をしていましたが、福祉の仕事は初めてのことばかりで覚えることがたくさんあります。慣れないうちには何かとご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、一日でも早く仕事を覚えて皆様のお役にたてるよう努力いたします。ご指導の程よろしくお願い致します。

**ようこそ！千葉県社会福祉士会へ**

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
鈴木 知子		柏市立柏病院	田村 博行	印西市	
中井 正子	佐倉市	四街道大日在宅支援センター	下山 真理子		
秋元 伸一	市川市	指定障害者支援施設 ディアフレンズ美浜	毛利 桂	八街市	特別養護老人ホーム 小倉町いずみ苑
松元 昭憲					

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

**平成 28 年 1 月末現在の会員数**

正会員 1,376 名、 準会員 4 名、 賛助会員 2 名 合計 1,382 名